

The child's cradle

舞台は、イギリスのマン島（Isle of Man）南部にある
人里離れた森林の中の孤児院_____「The child's cradle」
一年をかけて平均気温が二十度を上回らない、涼しい気候。
元は教会だった施設を再利用して運営されており、
礼拝堂の裏には初夏にかけて金色に輝く麦畑が広がっている。

Sister・Mary

孤児院の管理者である謎多き日本人女性。
子供たちの面倒から教会の設備経営をたった一人でこなす。
季節にちなんだ童話の読み聞かせを得意とし、
子供たちからは「先生」の愛称で慕われている。
自身の哲学や体験を元に、学問だけでなく
人の在り方について説いている。



track, 1

♪ 拝啓、私の大切な子供たちへ。

三月の風をすくつたら
君の短い髪も泳いで
まるでさかなみたいだね
このまま地平線も越えてゆこう
揺らめく夜空の一番星に
小さな心で恋焦がれてる
君がこの先寂しくなったら
数多の輝きを見上げればいい
そうすれば涙もこぼれないだろう

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
シスター・メアリーのイメージソング。

髪が揺れるさまを魚の様だと表現するなど、
彼女から見えている世界を大切に作詞した。

孤児院の子供たちの未来を、優しい星の光で
照らしてあげたいという思いが込められている。

track, 4

♪ シルヴァインのもくろみ

広い世界の果てがみたいんだ
転ばないでね、手を握って

十二の兎が鳴くまでは

靴を履いてはいけない

外へ出てはいけない

東の夜空が明くまでは

外へ出ては……

たまご！

逃げ出そうよ、バレやしないさ

このままどこまでもゆけるよ

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
シルヴァインのイメージソング。

十二の兎とは、零時を干支の子として数えた時に
兎(卯)の位置...つまり、午前三時のこと。

舞台であるマン島(イギリス)の四月下旬の月の入を
待たずに外に出る少年の心境を詠った曲。

track, 8

♪ 海底1000メータ

深くて浅くて暗くて苦しくて

息も続かない 海底1000メータ

血の味覚えた鯨の夜泣きを

あやしてうまれた子守唄

深くて浅くて暗くて苦しくて

息も続かない 海底1000メータ

全ての命に祝福と感謝を

羽、肢、花と実、全ての命に

届け！

愛よ、芽生えてくれ

どんな生まれかたを

したっていいじゃないか

そんな世界を作りたいんだ

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
ヘレンのイメージソング。

静かな夜の海の、ずっと深くまで届く子守唄が
テーマになっている。姿や形、善悪を越えて、
全ての命の全ての行いを見守る存在こそ
「ガイアの知性」の正体なのではないだろうか。

track, 10

♪ だいすき

忘れて、もう僕のことなんか
思い出にすらなくていいから
だからそう、君はもういい加減
幸せになるべきだね

縛ってしまったみたいだ
傷つけてしまったみたいだ
祈っていたはずだったのに
呪っていたみたいだ

ごめんね
好きだったのにね
僕らはひとりで生きてくんだね
ごめんね

私が初めて形にした曲で、当時の恋人に向けて
歌詞を書いた。企画とは全く無関係な一曲であったが
ここに綴った歌詞、「祈っていたはずだったのに
呪っていたみたいだ」が、後の楽曲制作に強く作用する
ことになったので組み込むことにした。

track, 11

♪ 外出

二時二十一分 家を出る
今年も来たんだね 季節と共に
あなたの白い髪が覗けた
夢微睡む

机に置かれたお金が増えたなら
あなたは何処に行く？
残念だけでも私は行けない
もう、踏切はないの

だってあなたは来なかった、私の元には
約束だってしない
言わない、聞かないなら どうやって
私に会いに来てくれるの？

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
アルフのイメージソング。

東の国で出会った友人との朧気な日々を歌っている。
それはまるで夢のように曖昧で、現実のような後味の話。

曲調がこれまでと打って代わり、エレクトリックに
仕上げられている。

散々待った私に

あなたはなんて声をかけるの？

八月みたいな夜だ あなたに会いにゆく

内緒の外出

四時五十一分 夢をみる

あなたに言わなくちゃいけないことが

いくつがあるが、やはりリタイア

会うのが怖い

僕の足音が死んだ

盗んだ自転車を下る、季節を下る

あなたに会いにゆく、内緒の外出

僕らはのけものだったけど二人で一つ

何処へだって、何だってできるよ

会いたいよ 会いたいよ 会いたいよ

待ちくたびれた私に

あなたはちゃんと笑ってくれるの？

初夏、踏切を越えて あなたに会いにゆく

再会せて

ごめんね、ほんとに嘘なの

私弱いふりしたわ

そうしなきゃ 私はあなたに会えない

会ってくれない

つまり会えない、よなあ

それでも会いにゆく、内緒の外出

僕らはのけものだったが幸せでした
あなたがいたから へっちゃらでした
会いたい、会いたいけれど

夏休み、家を出た

あの朝を何度も繰り返しているが
君の姿だけなくて、夜も来ない

謡いたい盛り 羽化したいばかりに
痛い痛い語りみたい、やめなよ

唄いたい未来 二人大嫌いな
神様に祈った 再開せて

誰が如何かと 首かしげても
あんたが世界で 一番かわいい
足りない あんたを守りたいだけ
じゃあまた一から 落下中
ちゅーしよ？

track, 14

♪ やがて罪は、花と成る。

祈りは呪いと紙一重だから
最期の最後まで手を繋いで
さいごまでてをつないで

クラス替えと交差点
最終末の朝が明けていく
あなたの影を追うのも
これでさいごだからさ
許してくれよ

君模様の夏、未来
踏切の口が開いている
あなたが吸い込まれてく
夏に食べられていく
僕も吸い込まれてく
夏に食べられていく

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
ケイラーのイメージソング。

生に対して関心の無い彼が夢の最後に見た景色を
綴った。それは最愛の友人が落下していくさま。

それなら彼だって、落ちていくことなど怖くない。

track, 16

♪ 頭

一本指で育ててくれた
母さんには ありがとうと言う

でも 延々延々延々延々延々延々 続く
気味の悪い音楽のせいで

僕は友達がいらないんだ って言うのを

我慢した 我慢した 僕は

良い子だと思ってた、 たった

我慢した 我慢した よねって

良い子だねって 壊れちゃうって

誕生日は ケーキがいいな

美味しいイチゴが食べてみたいな

祈りは呪いと紙一重

でも ケーキがいいんだ

何も聞こえないや

あんなにうるさかったのに

どうしてだろう？

まるで死んじゃったみたいだ

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
フィオのイメージソング。

たったひとりで育ててくれた母親との別れ際の話。
目も開かないような理不尽が親子を襲う最中で、
現実というフィルムの上映が淡々と続いていく。

track, 18

♪ おねがいごと。

さよなら 僕はもう行こうかな
揺れる、揺れる 不知火へ

世界が終わると 信じてやまない
あなたの 悴んだ指先で

町はずれの 小さな教会の 裏の麦畑で
愛する兄弟の手を引いて 星空を見上げた
然り而して 考し、手、交差して ゆくの
行く末が 末の 終末到着と 僕らの再会

そう思いたい そう思いたかった
春の背を追いかけてながら
ひとりで泣きたかったんだ

僕が描くのは 綺麗な世界で 充分さ
僕が描くのは……

当企画「--PLANETA--」の登場キャラクターである
主人公、プラネットのイメージソング。

企画発足時、キャスト募集のためのPR動画内で
使用したインスト楽曲を元に仕上げた。

結局、彼にとっての大切なものとはなんだったのか。
あなたは分かるだろうか。

track, 19

♪ écume nova

B
I
R
T
H
!

聞かせて 聞かせて 君の命の果てを
如何せん 世界を見た 僕の目を
逸らさないで 逸らさないで

track, 20

♪ 白鳥の星

青い麦と古い本

またおんなじ話を聞いてる

一年に一夜の恋人

あなたの初恋の話

あなたが大事にしてる 物語の中には

離れ離れてしまった 二人の話があった

ちようど真上にかかった数多の星を渡って

あなたもいつか再会えるといいね

うつむかないでよ

ああ、また、星が落ちるよ

ああ、また、星が燃えるよ

ああ、また、星が死んでしまうその前に

プラネッタの記憶の一ページ。

初夏が訪れると必ず語られる七夕の物語。

自身を投影するようなメアリーの語り方に
プラネッタは思った。彼女には、天の川を渡って
会いたい人がいるのだと。

ねえ羽根が生えて、今だけは飛べて
しがらみは全部 重力に従って
落ちてゆくから あなたは自由だ

静かな麦畑を抜ける 空には銀河

あなたはひとりで行った

一夜だけの大冒険

ああ もしかしたら

あなたは再会えずに泣きじゃくって

とぼとぼ帰ってくる かもしれないから

僕の願いを書いておこう

夜空の星よ

どうかあの人を泣かせないで

強がりな人だから笑顔で戻っておいで

僕の好きな人

track, 21

♪ 母鳥の唄

息が続くように

私とキスをして

泣き虫なあなたは

どこへもゆけないわ

このまま時間が

止まりますように

と、祈るわ

さあ 行きなさい 飛びなさい

この部屋から羽ばたいてゆく

愛してるわ

高く飛んでゆく

子を想う母の心境を歌った曲。

子の旅立ちには力強く、信じて背中を押してやる。

けれど今でも心のどこかで思っている。

自分がいなければあの子は何も出来やしない、

いつまでも愛情を注ぎ続けてあげたいと。

track, 22

♪ 八百籬

春になって歳をとって大人になった私
昨夜は、眠れなくて恐ろしくて
気がつけば夜が明けてたどうか
さよならがまたねにかわりますように
あなたは、子供より鮮明な未来には
いてくれないのだ

歳をとったあなたがすっかり小さくって
それでもって諦めの早い人だから
しわくちゃな顔で「疲れた」って
笑わないでそれだけで息が詰まるの

人は生まれ死んでくんだ、
古いものは悪いもんって誰が決めたの？
あなたは他の誰もが朽ち果てようと
少女のように愛らしい

私が祖母の誕生日に贈った曲。

よく遊んでもらった子供の頃の記憶は忘れて、いつの日か
あなたのいない日々の方が長くなってしまうと、

悲観的な歌詞になってしまった。(その為か祖母からの評価は低い。)

老いていく祖母の姿は見ていられないが、時の流れは決して止まらず
そして早くもならない。

「順番」って一人飛ばしたくらいで

何があるのかまうもんか

あなたは、私といえるのよ

骨は砕けない、肉は腐らないから

私のこと変わらず抱きしめて

春は曙、母鳥は目を閉じ

ようやく泣きやんだ

愛しい雛を抱く

ヤゴはトンボに 蕾は花を散らし

私は大人に

思い出はつらいものが多いですか

話すたびに赤く滲む あなたの瞳

いつもつられて泣いてしまうの

繊細なところは似てるね

効率とか論理とか 馬鹿げて見えるのは

ひとの思いを大切にする

あなたがとてもまつすぐで

かつこいいと思ったから

初夏の日差しが、あなたを待ってる

あなたは決めたんだ

この日に生まれることを

花に優しく、人に優しい

あなたがどうか、末長く

私の家族でいて欲しい

（春は曙、雛鳥は巣を立ち）

高く飛んでゆくの

track, 23

♪ 飛べない羽のウェンディ

こどものままで

裸足で抜け出そうよ

朝が来るまで

ココアをはんぶんつしてさ

手すりには氷、風は森を抜け

右頬にあくびをする

なあ、夜更けまでいよう

このまま夜になってゆけ

深夜、急にピアノを弾いていて出来上がった曲。

真冬、真夜中の公園で母とココアを

飲んだ記憶があり、その時見上げた薄らと

覚えている星空を思って歌詞を綴った。

track, 26

♪ Dear My Mum.

十六の冬を眠ったただ春が来るのを待った
あなたの悲しい顔の理由が知りたい

十七の三月、窓辺

愛しい兄弟へ贈り物を

海岸を飾る死骸に祈りを捧げた朝

十八の秋に沈んだ東の国の夕焼けを

あなたに見せたいと思った

もうじき冬が迎えに来る

洗ったばっかのシーツの匂いが

鼻に残って痛みになって

今日日この僕の体を蝕み足を止める

そして春風がふいて

あなたが微笑み振り返る

でももういない、あの時の僕はあなたは

プラネッタが大人になって、
忘れることのできない故郷を求めて旅に出る話。
褪せない記憶は彼を寂しさで縛り付けている。
凍える冬をたったひとり歩き続けて、
辿り着いた景色に全ての答えがあった。

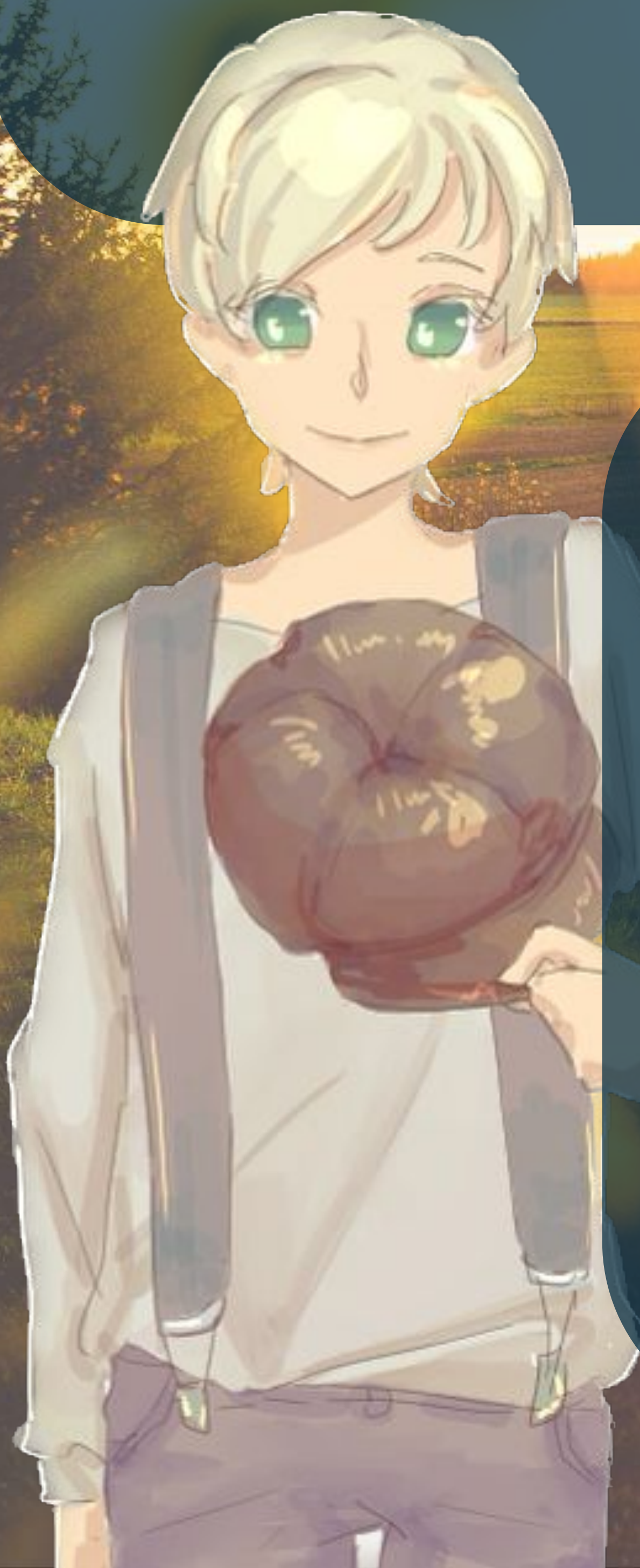
もうじき冬が来る 麦の金色を思い出す
じきに凍える冬が来る
優しいあなたを思い出す

先生、僕は大人にあなたのような優しい
兄のような賢い 人になれましたか

あなたの長い髪の毛が
瞼の裏で揺れている

まだ忘れられないようで
ここまで来てしまったのです

言葉も知らない世界の輪郭を
あなたの記憶を爪先で辿る
隠してることがあるでしょう
あなたの名前を 教えて



洗ったばかりのシーツの温度は
かすかにあなたを含んでいて
胸の焦げるような寂しさが 込み上げる
あの時と同じ匂いがした
「おかあさん」なんて、叫んでしまつて
走り出して
あなたが ふにやりと笑つた
そして「おかえり」と、僕のほっぺを触る